

# なでぼとけー健康祈願の像

寶頭盧さんたからずかを「存じだろろうか。本名はピンドーラ・バーラドヴァージャ。インド人である。といっても古代インドのヴァツサ国出身で、釈迦の高弟の一人だ。除夜の鐘や初詣でお寺を参拝した際、本堂の入口あたりに赤い僧形の座像がなかったらどうか。それが寶頭盧像である。よく地藏菩薩に間違えられるが、全身が真っ赤で、だいたいがお堂の外にあることで見分けがつく。なぜ赤く、外なのか。寶頭盧は優れた弟子だったが、酒好きで、いろいろあって釈迦の叱りを受けた。そのため堂内に入れないのだという。いろんな意味でちょっと気の毒な像だ。

この寶頭盧像には「なでぼとけ」信仰がある。体の調子

埼玉県立大学准教授 浅川 泰宏

の悪いところと同じ部分をなでると癒やされるといわれる。長野県の善光寺では、正月に寶頭盧像を引き回し、無病息災を願うお祭りが行われる。機会があれば、この寶頭盧像の顔をよく見て頂きたい。目の部分がすり切れて「ない」のである。それどころか、至るところが摩耗している。それだけこの寶頭盧像は人々のさまざまな健康の悩みを受け止めてきたのだ。寶頭盧像が外にあるのは、酒のせいなどではない。むしろ自らすすんで「なでられる」ため、より積極的な衆生救済のためである。自らの身体をすり減らすことで、私たちの健康祈願

## 自らをすり減らし願い成就

に込めてきた寶頭盧像は、間違いない仏教でいう利他と慈悲の体現者だ。

本学の周囲はジョギングコースになっている。出発点にはマイルストーンが置かれているが終点には何もない。私は民俗学者としてここに寶頭盧像ほどふさわしいものはないと思う。健康づくりのジョギングで、終わったら、気になるところ、長くしたいところを「なでぼとけする」のである。予防と癒やし。完璧ではないか。諸事情から実現しそうにないが、もし寶頭盧像がお目見えすることになったら、それは読者の皆さんの声によるものと受け止めた

さまざまな寶頭盧像。  
いずれも筆者撮影

県立大発!  
健康  
情報



< 8 >

